

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®]認証申請書

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 宗像漁業協同組合津屋崎支所

住所：福岡県福津市津屋崎4-47-8

氏名：支所長 内嶋 和彦 ㊞

法人番号：4290005005656

(共同申請者) 福岡県ブルーカーボン推進協議会

住所：福岡県福岡市博多区東公園7-7

氏名：会長 佐藤 政俊 ㊞

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	福津かがみの海のブルーカーボンプロジェクト

プロジェクト区分 (複数選択可)	吸収源の新たな創出
プロジェクト情報	<p>本プロジェクトは、昭和61年から平成元年にかけて、元々砂地であった場所にアワビの生育場形成を目的とした藻場投石礁を設置し、豊かな漁場環境を育ててきた。</p> <p>しかしながら、近年、アイゴによる食害が顕者であり、磯根資源の枯渇が懸念され、2年前から地元の漁業者によりアイゴ駆除活動が実施されてきた。</p> <p>また、低・未利用魚であるアイゴを宗像漁業協同組合津屋崎支所が買い取り、県立水産高校にアイゴの調理方法を依頼し、2024Fish缶グランプリで最優秀賞を受賞した(https://localfishcan.com/2024/)。</p> <p>藻場面積の調査は、九州大学大学院農学研究院の協力のもと実施した。</p> <p>(アイゴ駆除) 宗像漁業協同組合津屋崎支所 地元漁業者 (低・未利用魚の調理方法開発) 福岡県立水産高等学校 (調査・算出) 九州大学大学院農学研究院 (申請補助・活動支援) 福津市 福岡県ブルーカーボン推進協議会 (福岡県ブルーカーボン推進協議会構成員) 福岡県農林水産部水産局水産局長、 福岡県水産海洋技術センターセンター所長、 福岡県環境部環境保全課環境保全課長、 福岡県国土整備部港湾課港湾課長、 北九州市産業経済局農林水産部水産課長、 福岡市農林水産局水産部水産振興課長、 宗像市産業振興部水産振興課水産振興課長、 福津市経済産業部農林水産課農林水産課長、 糸島市農林水産部水産林務課水産林務課長、 糟屋郡新宮町産業振興課産業振興課長、 遠賀郡芦屋町産業観光課産業観光課長、 遠賀郡岡垣町農林水産課農林水産課長、 福岡県漁業協同組合連合会代表理事長、 糸島漁業協同組合代表理事組合長、 福岡市漁業協同組合代表理事組合長、 新宮相島漁業協同組合代表理事組合長、 宗像漁業協同組合代表理事組合長、 遠賀漁業協同組合代表理事組合長、 ひびき離漁業協同組合代表理事組合、 北九州市漁業協同組合代表理事組合長、 九州大学大学院農学研究院、 福岡県立水産高等学校学校長 トヨタ自動車九州株式会社環境プラント部 CN・環境企画室グループ長、 一般社団法人ふくおかFUN代表理事、 株式会社高田工業所経営企画部事業開発グループ長</p>
クレジット取得理由	アイゴによる食害を抑制し、藻場を維持・拡大することで、CO ₂ 吸収源の拡大を目指す。そのためには、アイゴ駆除活動を継続的に取り組む必要があり、これらの活動を維持・拡大するには新たに資金調達が必要であることから、Jブルークレジットの申請を行う次第である。
クレジット取得後の計画や見通し	アイゴ駆除活動を拡大し、藻場を維持・拡大することで、CO ₂ 吸収源の拡大を目指す。
申請対象期間に実施した活動の概要	アイゴ駆除活動：17回(計385尾，約190kgを駆除)【宗像漁業協同組合津屋崎支所、地元漁業者】 商品開発【福岡県立水産高等学校】 調査・算出【九州大学大学院農学研究院】
プロジェクト実施開始日	1986年～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年06月01日～2025年05月30日
		<p>【面積】 1.08(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】 津屋崎地区については2025年5月20日にドローンによって空撮し、得られた画像に基づき投石礁（藻場）の面積を算出した。福間地区についてはGoogle Earthにより投石礁のスケールを算出し、その後、2025年5月23日にドローンによって空撮し、得られた画像に基づき現状の投石礁（藻場）の面積を算出した。</p> <p>【面積の資料】 添付ファイルなし</p>
	③対象とする面積	
④吸収係数		<p>【単位面積あたりの湿重量】 45.4</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 各海域の代表地点における対照海藻種（ワカメ）の質重量を、Jブルークレジット申請手引き記載(p31)の式より求めた。 湿重量 (kgWW/m²) = 0.0673 × e^t (0.7658 × 被度階級) 各海域の藻場面積から本申請における単位面積あたりのワカメの湿重量は津屋崎地区で14.4 t/ha、福間地区で31.0t/haとなった。</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 資料3.pdf</p> <p>【含水率】 90(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 含水率については、可能な限り近海において採取されたワカメの既存文献値90%（調査場所：徳島県沿岸域、海草・海藻藻場のCO₂貯留量算定ガイドブック、水産研究・教育機構、令和5年11月）を使用した。</p> <p>【含水率に関する資料】 添付ファイルなし</p>

項目1	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.3 【P/B比の算定根拠】 P/B比については、可能な限り近海において採取されたワカメの既存文献値1.3（調査場所：岩手県沿岸域、磯焼け対策ガイドライン、水産庁、令和3年3月）を使用した。 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【炭素含有率】 30.1(%) 【炭素含有率の算定根拠】 炭素含有率については、可能な限り近海において採取されたワカメの既存文献値30.1%（調査場所：広島県沿岸域、吉田ら：広島湾に生育する海藻類の炭素・窒素含有量とその季節変化、瀬戸内水研報、3、53-62、2001）を使用した。 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率1】 0.0493 【残存率1の算定根拠】 残存率1についてはJブルークレジット申請の手引きに記載の値0.0493を用いた。 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0279 【残存率2の算定根拠】 残存率2についてはJブルークレジット申請の手引きに記載の値0.0279を用いた。 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.814(t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：1.08(ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 85%</p> <p>(吸収係数：0.754303 × 評価：85%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (132kW / 180PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 1.50(h)</p> <p>【出力】 132.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 軽油</p> <p>【CO₂排出量】 0.023(t-CO₂)</p>

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 砂地に設置した投石礁上に形成された藻場によるCO2吸収分を申請するため、ベースラインは0とする</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.6(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	0.6 t
------------------	-------